

シニアのスマホ教室

高齢者の情報発信力を高める



これどうするの？ 互いに教えあう生徒たち

六月一日、山中さんが講師となつて、初めてのスマホ教室が伊野コミセンで開催された。参加した人は山中さんの楽しい説明に導かれて、自撮りなどスマホの基本的な操作を学んだ。主催したのは未来こい！ネット教育委員会。生涯学習の充実をねらっている。

「高齢者は時間もある、地域のこともよく知っている。この人たちが情報発信の術を得れば、伊野の情報

発信力が飛躍的に高まるだろう」と提案したのは、島根や神奈川でまちづくりを応援している山中のえんさん。

スマホやタブレット、パソコンなどを使った情報発信や情報収集がコロナ禍をきっかけに一段と普及してきました。こうした機器を使って伊野のまちづくりを効果的に進める取組が始まりました。

デジタル時代に対応したまちづくり

オンライン会議

伊野バージョンの企画検討



島大生とオンラインで話し合い

伊野地区自治協会ホームページを訪れた人は・・・

昨年度は2,184人。そのうち35%が出雲市、15%が松江市から。両市以外（県外含む）が50%。新着情報を見る方が多いので、定期的にアクセスするリピーターが一定数いると推察されます。

伊野の自然を舞台に子どもがワクワク・ドキドキするあそびをつくる伊野バージョンが始まったのは2013年。「どんな効果もねらっていないのか。子どもや親はどう受け止めているのか」とい

う質問が学生から寄せられ、五月一日、コミセンまちづくり部のメンバーがコミセンに集まり、オンラインで学生たちと話し合った。六月一五日には学生たちが伊野バージョンの舞台を探すため、地区内を散策した。その後の学生たちの話し合いで、今年の夏は海ではなく山で活動することになった。